

衆議院文部科学委員会ニュース

平成 22.2.24 第 174 回国会第 2 号

2月24日(水) 第2回の委員会が開かれました。

1 文部科学行政の基本施策に関する件

- ・川端文部科学大臣、中川文部科学副大臣、鈴木文部科学副大臣、後藤文部科学大臣政務官、高井文部科学大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

石井 登志郎君(民主)

- ・我が国の英語教育の最終的な目標が大学受験になってしまっているとの懸念があるが、英語教育に対する大臣の見解を伺いたい。
- ・ICTはツールであり、目的を持って使わなければならないと考えるが、ICTを教育において活用する目的について伺いたい。
- ・国立国会図書館における電子納本制度の導入についての検討状況を伺いたい。

城井 崇君(民主)

- ・科学技術関係予算について特定の研究者へ過度に予算が集中する等非効率な予算配分がなされているのではないかなどの懸念があるが、今後の改善を含めた大局的な科学技術関係予算の在り方を伺いたい。
- ・科学技術関係予算の中でも大きな額が計上されている次世代スーパーコンピュータについて、今後の展望を伺いたい。
- ・若手の研究者にとって年度初めに研究費の確保が難しいなど研究費の支給方法が現場の実態と合わないなどの問題について見解を伺いたい。

首藤 信彦君(民主)

- ・図書館については、司書の配置が十分でないなどその機能が低下してきている中、図書館の充実のための文部科学省の施策及び我が国における先新的な取組事例があれば伺いたい。
- ・スクールカウンセラーの配置やいじめ電話相談などの既存の取組のほか、学校において、子どものいのちを守るための新たな取組例があれば伺いたい。
- ・「新しい公共」を実現するためには、政府からNPO等に権限や財源を渡していく必要があると思うが、教育分野において、そのようなことが本当に実現できるのか大臣の見解を伺いたい。

池坊 保子君(公明)

- ・政権交代を踏まえて、教育、文化、スポーツ、科学技術といった分野の改革の基本的な方針について、大臣の見解を伺いたい。
- ・本年が衆参の本会議で決議された国際読書年であることを踏まえて、現在の文部科学省の読書に関する施策について大臣の見解を伺いたい。
- ・平成20年度の高等学校の中退者が約6万6千人、不登校生徒が約5万3千人となっている現状で、これらの生徒一人一人に対してきめ細やかな支援をする必要があると考えるが具体的な方策について伺いたい。

宮本 岳志君(共産)

- ・学ぶ意欲のある生徒が経済的な理由で卒業を断念しないように様々な施策を講ずるべきと考えるが大臣の見解を伺いたい。
- ・行政改革推進法の地方公務員の職員数の純減の期日が経過することから、今後は教職員の定数を増やし、正規の教職員を増員すべきと考えるが、大臣の見解を伺いたい。
- ・教員免許制度の抜本的見直しをするのであれば、直ちに教員免許更新制を廃止して検討する必要があると考えるが、大臣の見解を伺いたい。